

あの頃の風景

福岡県 百道海岸

日本技術開発株式会社
企画・開発本部 パブリックマネジメントセンター
植村将一 UEMURA Shoichi



写真1 - かつての百道海水浴場。ここで泳ぎを覚えた博多っ子も多いのでは(昭和38年)(写真提供:福岡市港湾局)

福岡ドームや福岡タワーなど趣向を凝らしたデザインの建物が林立する「シーサイドもち」は、約20年前までは「百道海岸」と呼ばれる海岸であった。この海岸には、江戸時代初期、藩主黒田長政が町家1戸に1本植えさせた松が繁殖し、「紅葉松原(百道松原)」と呼ばれる美しい景観が形成されていた。今もその名残が百道小学校の校庭など随所に残されている。

大正7年に開設された百道海水浴場には20件ほどの海の家が立ち並び、昭和30年代初頭に福岡市の人口増加に伴う水質の悪化が進むまでは、大勢の海水浴客でにぎわっていた。また、この浜辺は、アサリやマテ貝、海苔などの豊かな海の恵みももたらしていた。戦時中、漫画家長谷川町子(故人)はこの地に暮らし、「サザエさん」はこの浜で生まれたそうだ。登場人物に海に因んだ名前が多いのも頷ける。



写真2 - 埋立が始まる前の百道海岸(昭和56年)(資料:国土画像情報(カラー空中写真)国土交通省)



写真3 - 埋立がほぼ完了した百道海岸(昭和62年)(資料:国土画像情報(カラー空中写真)国土交通省)



写真4 - 建設省(現国土交通省)の都市景観大賞も受賞した「シーサイドもち」(写真提供:福岡市港湾局)

昭和57年4月に始まった埋立によって百道海岸は大きく姿を変えた。かつての波打ち際は4車線の幹線道路に姿を変え、遠浅の水辺には新たに138haの土地が造成された。平成元年3月にアジア太平洋博覧会(よかトピア)の会場として利用され、その後は現在の「シーサイドもち」が整備された。

人工海浜の周囲にある松林は、「先人たちに習って自分たちの手で松を植え、白砂青松の美しい松原を復元しよう」とする女性たちを中心とした市民運動によって植えられ育てられたそうである。

新しく設けられた人工海浜には、レストランやマリニショップ等がある複合商業施設「マリゾン」が設けられ、また、海水浴だけでなく、アクアスロンやビーチバレー等の大会も開かれるなど福岡市の新しいレジャースポットとして市民に親しまれている。



写真5 - 海上に作られたマリゾン



写真6 - 百道海岸より広がった人工海浜



写真7 - 浜辺の際に植えられた松林 散歩道としても活用されている